

わたしは、年をとった いちようの木です。
五百年ものむかしから、浅草の かん'nさまの
けいだいに たっている いちようの木です。



ある日のこと、おとうさんと おかあさんと
三人で さんぽにきて、三人で 手をつないで
ぼうやの背たけになって、わたしを かこんでくれてね
それでも、手は とどかなかった。
「おおきな木を だっこしたね」
カズヤが そういって よろこんで。



それからだよ
わたしのことを「だっこの木」って、
よんでくれるようになったのはね。
あそびにくるたびに ちいさい手を
いっぱいにひろげて
しっかりと はりついて
「だっこの木を だっこしたよ」
そういつてくれましたっけ

このあいだ、かみの毛の白くなった紳士が
小学生ぐらいな男の子をつれてきて……

手をつないで わたしにはりついて

——これが だっこの木だよ——

そういつて わたしのこずえを みあげてくれた。

——カズヤじゃないか おひさしぶり——

わたしは、はっぱを風にそよがせて 声をかけたさ。

孫むすこを つれてきてくれたんだね。

